

一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の推進と体制作り

～中学校区を単位とした小中連携のあり方～

1. 設定理由

佐倉市の志津・井野ブロック（13校）では、年に2回（11月、1月）の合同学習会を通して近隣校との交流を図ってきた。また中学校進学に際しての特別支援学級体験入級や小中連絡会、各小学校共通の資料を使った引き継ぎ等を行ってきた。しかし、中学校進学への不安が大きい児童がいることや、教職員同士の連携する機会が少ないことが課題に残っていた。そこで、ブロック単位での交流を計画的、継続的に実施することで、児童生徒の人間関係を深めることや教職員同士の連携を深めることができると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- ① ブロック単位で交流する期間を長くすれば、活動内容を工夫しやすくなり、児童生徒は発達段階に応じた人間関係を養うことができるであろう。
- ② ブロック単位で交流する活動内容を工夫すれば、教職員同士のかかわりが深まり、学校間の連携が取りやすくなって、児童生徒への適切な支援ができるであろう。

3. 研究内容

- 佐倉市志津ブロックにおける「なかよし交流会」（5月）、「なかよしバザー」（7月）を取り入れた年間の取り組み。
- 佐倉市井野ブロックにおける顔合わせ交流会（6月）を取り入れた年間の取り組み。

4. 結論

- ブロック単位で活動することによって、交流する機会を増やすことができ、児童生徒同士の関係が築かれつつある。
- 中学校の活動を元に交流の内容を決めたことで、中学校での様子を知る機会となり、特に小6児童には進学への見通しをもつきっかけとなった。
- 教職員同士の関わりも深まり、小中連携の活動についての話し合いだけでなく、学校の児童生徒や活動の様子についての情報交換や相談がしやすくなった。

1 研究主題

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の推進と体制作り
～中学校区を単位とした小中連携のあり方～

2 主題設定の理由

1部会（佐倉市・酒々井町）特別支援教育研究部は、大きく3つの地区（A：佐倉・酒々井地区、B：臼井地区、C志津地区）に分かれている。

平成28年度までは、1部会全体で年2回の小中合同学習会（秋の野外学習会と、冬の学習発表会）を企画・運営してきた。しかし、特別支援学級で学ぶ児童生徒数が年々増えていくに伴って、個に応じた支援が十分できなくなっていた。そこで、小集団での活動を深めることをねらい、野外学習会をブロックごとに分かれて運営することとなった。

井野ブロック（志津中、井野中、志津小、上志津小、井野小、小竹小、青菅小）は、京成本線ユーカリが丘駅と志津駅北側を中心に広がっている。駅付近は商店や大型店舗、マンションが並び賑やかな地域だが、自然豊かな地域も多くある。モノレール・ユーカリが丘線を利用すると、各学校が集まりやすいといった特色もある。一方、志津ブロック（西志津中、上志津中、西志津小、南志津小、下志津小）は、志津駅南側に広がっており、開拓の歴史のある古い町並みから、住宅開発が続く地区まである。徒歩で行き来できる学校がいくつかあり、離れている学校もバスを利用することで比較的行き来しやすい。どちらのブロックも、このように、古い歴史と新しい街並みが混ざっているため、各校の規模や特徴、児童の実態も様々である。

志津・井野ブロックでは、年2回（11月と1月）の合同学習会を通して近隣校との交流を行ってきた。また、中学進学の際は、支援学級の体験入級を行ったり、小中連絡会で情報交換の機会を設けたりして、小中連携を図ってきた。しかし、最も規模の大きい志津中学校には、志津小学校・上志津小学校・井野小学校の3校から入学するため、各小学校からの情報内容が様々で一律に把握しづらく、入学した段階で本人の実態把握に時間がかかる状況があった。また、小学校としては、中学校での普段の学習や生活の情報が少ないため、中学進学に向けてどのような力を育てる必要があるのか、児童・保護者に対してよりよい就学相談を行うにはどうすればよいのかなどの課題があった。これらは志津中学校区に限らず、志津・井野ブロックの全学校に共通する課題であった。

そこで、志津中学校区では昨年度末の小中連絡会に向けて、特別支援学級に入級する児童についての引継ぎ資料の様式を統一し、3校が同じ形式で作るようにした。また、井野ブロックでは、一昨年度から合同学習会の縦割りグループをできるだけ変更せず、2年連続で同じ児童生徒・同じ教職員で活動・支援するようにしてきた。これらの取り組みから、今年度入学した生徒についてはこれまでより具体的な引継ぎをすることができた。西志津中学校では、今年度の入級は西志津小学校からのみであったため、小学校が作成した資料を基に引継ぎを行った。どの中学校も、入学に向けて小学校側との引継ぎを重視し、中学校での生活や支援について具体的な話し合いをもつことができたため、入学後の支援をスムーズに行うことができた。

このように、教職員同士の連携をとることで、中学校入学に際しての児童に関する情報共有については改善されたが、児童が安心して進学できる対策が今年度の課題として残っている。例年、中学校へ控えた小学6学年児童の様子を見てみると、中学入学を楽しみにしている一方

で、知らない友達や先生との関わりに不安を口にする児童が多い。これは、合同学習会で出会ったことがあるはずの子も、名前や顔があいまいで、友達として認識するには関わりが薄いためでもある。西志津小学校から進学する児童からは、中学校でどんな学習をするかわからず不安であるという声もある。教職員側は、引継ぎを重視していたため、児童に向けての中学校生活の紹介が不足していたと考えられる。

これらのことから、次の点について、取り組むことで成果が上がると思う。一つ目は、ブロック単位の活動を充実させることである。合同学習会では互いに知り合うことができるが、その後会う機会が少ないため、「友達ができた」という実感が薄くなってしまう。学校同士は比較的近い場所にあるので、もっと積極的に交流の場を設け、児童生徒同士の関わりを深めていくことが可能である。

もう一つは、教職員同士の連携をさらに深めることである。ブロック単位で交流する場が増えれば、教職員同士が顔を合わせる機会が増える。また中学校区の情報交換が頻繁に行われればよりきめ細やかな支援にもつながる。近年、新任の特別支援学級担当の教職員が増えているが、学校内に経験者がいないケースも見られる。近隣の学校との連携を深めることで、補い合えるものを補い、相談し合っていける関係作りをすることが、児童生徒へのよりよい支援につながっていくと考える。

以上のことから、教職員も児童生徒も、ブロック単位で年間を通して交流活動を計画的に実施することで互によく知ることができ、安心した学校生活への大きな一助となると考えられる。そのためには、ブロック単位での活動の良さを生かして小中連携を深め、教職員同士の交流や、児童生徒を理解する機会を確保すること、児童生徒が互いに知り合う機会を増やすことで、中学校入学への移行や個の発達への支援をスムーズに進めることができるようになるのではないかと考える。志津・井野ブロックでは、互いの連携をブロックの重点課題と捉え、「志津・井野ブロック小中連携プロジェクト」として実践していくために、本主題を設定した。

3 研究仮説

仮説1 ブロック単位で年間を通して交流活動を計画的に実施すれば、活動内容が深まり、発達段階に応じた人間関係を養うことができるであろう。

ブロック単位であれば、地域の特徴でもある交通の利便性を生かし、交流する機会が増やしやすく、通常の日課の中でも継続的に交流活動を行うことが可能になる。活動内容は、志津中学校や西志津中学校の活動をもとに、児童が関心をもっている内容を中学生が伝える形にすることで、共同学習が可能になり、児童が中学校生活へのイメージを持ちやすくなるのではないかと考えている。さらに、継続的な関わりをもつことで、顔見知りの関係から、また会いたい友達へと関係が深まるのではないかと考え、この仮説を設定した。発達段階に応じたためあてとしては、

- ・ <低学年の児童>多くの児童生徒との関係が深まり、親しみがもてる。
- ・ <高学年の児童>中学校進学への不安が軽減され安心して生活できる。
- ・ <中学生>上級生としての自覚を深め、自信をもつことができる。

とした。どのめあても、短期間で達成できるものではなく、長期的な視野に立って実践することで、その場限りの活動から脱却できるのではないかと考える。地域の特性を生かし、交流を

継続的に行うことでお互いをより良く知り、地域社会で生活していくことへの自信につなげていけるだろう。

仮説2 ブロック単位で交流する活動内容を工夫すれば、教職員同士の関わりが深まり、学校間の連携が取りやすくなって、児童生徒への適切な支援につながるであろう。

ブロック単位での活動は児童生徒が集まりやすいだけでなく、教職員同士が集まる機会も増やしていくことができる利点がある。児童生徒の交流会を開くためには、何度か打ち合わせ会を開くことが必要であり、教職員同士が直接話をする機会が格段に増える。経験年数や年齢にかかわらず、各学校の様子や特に配慮を要する児童への支援の相談等を行うことができる良い機会となると考えられる。

教職員は、児童生徒とずっと関わることができるわけではなく、思いがけないタイミングでの異動もある。教職員が変わっても、継続した支援体制がとれることは、児童生徒の成長発達において最も重要である。そのためになるべく多くの教職員が支援を検討し、共通理解を図ることが大切である。教職員の関わりが深まり、学校間の連携が取りやすくなれば、「児童生徒の顔と名前が一致することで、行事の際に一人一人にあった支援をすることができる」ことや「中学校入学時に、該当児童について中学校教職員が理解していることで、児童や保護者の不安を軽減できる」ことなどが期待できる。より良い支援を行う上で教職員同士の関係づくりや学校間の連携は、今後一層重要になると考え、この仮説を設定した。

4 研究計画

(1) 志津ブロック編

西志津中学校では、地域のバザーで毎年頒布会を行っている。また昨年度は西志津小学校も初めて校内頒布会を行った。そこで共通の実践である頒布会を「なかよしバザー」というブロック内の小中学校が参加する活動に広げ、年2回の縦割り班での活動を加え、計画実践した。

以下が、具体的な年間計画である。

＜令和元年度 志津ブロック 小中連携年間計画＞ ☆は今年度新設した活動

	児童・生徒の活動	教職員の活動	仮説との関わり
3月		☆小中連携打ち合わせ ☆FAX連絡	・小中連携プロジェクトとしての活動内容を話し合う。 (仮説2)
4月	☆「なかよし交流会」 縦割り班での交流 (西志津小 9:00~10:00)	☆交流会打ち合わせ ☆FAX連絡	・縦割り班で楽しく遊び、班の友達の名前を知る。 (仮説1) ・班の児童生徒の実態を把握する。 (仮説2)
5月		☆FAXで日程調整 ☆バザー打ち合わせ	・各学校の作業学習や生活単元学習の内容を情報交換し、なかよしバザーの活動内容を話し合う。 (仮説2)
6月		☆バザーの詳細 FAX連絡	・打ち合わせで決まったことや配慮事項などを伝達する。 (仮説2)
7月	☆「なかよしバザー」 縦割り班での交流 (西志津小 9:00~10:30)	☆バザーの詳細 FAX連絡 野外学習会下見	・バザーを通して、縦割り班の友達と交流を深める。 (仮説1) ・交流会で得た情報をもとに、さらに児童生徒の様子を知ったり、支援をしたりする。(仮説2)

9月	各学校間での交流（手紙）		・手紙のやりとりを通して、交流を深める。 （仮説1）
10月	野外学習会に向けた計画 小6中学校体験	野外学習会打ち合わせ 小6児童の情報交換	・中学生が小学生にアンケートをとり、希望をもとに計画を立てる。 （仮説1） ・配慮児童についての共通理解をもとに支援の計画を決める。 （仮説2）
11月	小中合同野外学習会 「千葉市動物公園」 縦割り班での活動	野外学習会反省	・班の友達と再会し、交流を深めて活動を楽しむ。 （仮説1） ・計画に基づいて支援する。 （仮説2）
12月	合同学習発表会の準備	合同学習発表会事前指導 野外学習会反省	・班の友達が見てくれることを楽しみに、自分の学校の準備をする。 （仮説1）
1月	小中合同学習発表会 （頒布会）	合同学習発表会	・班の友達の発表を応援し、認め合う。 （仮説1） ・事前の打ち合わせによる配慮事項を踏まえ、計画を実行する。 （仮説2）
2月	☆発表会の感想交換 （手紙のやり取り）		・互いの頑張りを認め合う。 （仮説1） ・中学校入学に向けて、児童の情報を共有したり、小学校で入学準備を進めたりする。 （仮説2）
3月	☆小6児童・中3生徒 卒業のお祝い（手紙のやり取り等）	小6 中学校入学前 情報交換	・互いに卒業を祝う気持ちを育てる。（仮説1） ・卒業する児童の情報を小学校から提供する。 （仮説2）

（2）井野ブロック編

今年度は、6月に「顔合わせ交流会」を開くことにした。交流会の内容には、志津中学校の作業学習で取り組んでいる陶芸を生かし、学習発表会の参加賞作りを入れることで年間の行事につながりをもてるようにした。以下が、具体的な年間計画である。

<令和元年度 井野ブロック 小中連携年間計画> ☆は今年度新設した活動

	児童・生徒の活動	教職員の活動	仮説との関わり
4月		☆交流会打ち合わせ	・より早い段階で教職員同士が会うことで、情報交換や相談ができる関係を作る。 （仮説2）
5月	班編成（例年は8月頃） ☆ビデオレター視聴 ☆志津中学級だより配布	☆交流会打ち合わせ	・交流会に向け中学生が動画を制作。小学生は視聴し、当日の活動内容を知る。 （仮説1） ・昨年度の班を基本として児童生徒の人間関係が継続する班編成を行う。 （仮説2）
6月	☆小中合同顔合わせ交流会 （自己紹介・キーホルダー制作）	☆交流会反省	・班の仲間の顔・名前を覚える。助け合いながら共同制作を行う。 （仮説1） ・班の児童生徒の様子や卒業児童の状況を知る。 （仮説2）
7月	☆キーホルダー加工 ☆小中間での作品配達 ☆中学校が頒布会の案内状を各校へ配布		・交流会後の手紙交換、作品の配達等を児童生徒が行い、相互の交流を深める。 （仮説1） ・各小学校の卒業生を中心としたやりとりを通して、児童生徒の情報を共有しやすくする。 （仮説2）

8月	中学校頒布会（志津まつり）	野外学習会下見	<ul style="list-style-type: none"> ・頒布会の取り組みを小学生に見せ、中学校の様子を伝える。（仮説1） ・合同で下見を行い、配慮が必要な児童生徒の共通理解をもとに計画をたてる。（仮説2）
9月	☆小学校への作品配達 学校間での交流	野外学習会打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・作品配達連絡・訪問を中学校生徒自ら行い、相互の交流を深める。（仮説1） ・打ち合わせを通して配慮が必要な児童生徒の共通理解を進め計画を練る。（仮説2）
10月	野外学習会に向けた計画 活動希望アンケート実施 ☆学習発表会参加賞製作開始 小6中学校体験	野外学習会打ち合わせ(配慮児童生徒についての情報交換含む) 小6児童の情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮児童生徒についての最終情報を基に共通理解をもって支援の計画を確認する。（仮説2） ・アンケートの実施や、参加賞製作において児童生徒が手紙・FAXによって連絡を取り合う。中学生には、役割を意識させる（仮説1）
11月	小中合同野外学習会（班活動） カンドゥー	野外学習会反省	<ul style="list-style-type: none"> ・班の仲間と再会し、交流を深めて活動を楽しむ。（仮説1） ・最終調整を行った共通情報を基に、児童生徒の支援にあたる。（仮説2）
12月	合同学習発表会のお知らせ・☆応援レター交換（手紙・ビデオレター等）	合同学習発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・応援レターを作成しながら1年間の班活動を振り返り、学習発表会で仲間との関係をより深められるようにする。（仮説1） ・児童生徒の活動を通して、教職員同士の共通理解を深める。（仮説2）
1月	小中合同学習発表会 （参加賞の配布、頒布会）		<ul style="list-style-type: none"> ・班の仲間の発表を応援し、認め合う。（仮説1） ・事前の打ち合わせによる配慮事項を踏まえ、計画を実行する。（仮説2）
2月			<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会のDVDを見て互いの頑張りを振り返る。（仮説1） ・小6児童の情報を互いに共有するとともに、中学校入学への準備を進める。（仮説2）
3月	☆小6児童・中3生徒 卒業のお祝い（手紙のやりとり等）	小6中学校入学前情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに卒業を祝う気持ちを育てる。（仮説1） ・卒業する児童の情報を小学校から提供する。（仮説2）

5 研究実践

(1) 志津ブロック編

4月23日「なかよし交流会」

① ねらい

- 7月の「なかよしバザー」に向けて年間縦割り班の確認と顔合わせを行い、交流を図る。
- 「なかよしバザー」と11月の野外学習会に向けて活動の見通しをもつ。
- 教職員が児童生徒の実態を把握する。

② 手立て

- ・中学生が上級生としての自覚をもてるようにするために、中心となって会を進める。
(仮説1)
- ・小学生が他校の友だちに親しみをもって関わられるようにするために、全体でできる遊びだけでなく縦割りの班に分かれて勝敗がなく楽しく遊ぶことができる遊びを行う。
(仮説1)
- ・班の児童生徒の実態を把握し、必要に応じた支援を行うようにするために、教職員も縦割りの班に入る。
(仮説2)

③ 活動の流れ

日時 令和元年4月23日(火) 9:00~10:00

場所 西志津小学校 体育館

移動手段 南志津小はバス 上志津中と西志津中は徒歩

内容 1. はじめの会(全体) 司会は上志津中

2. ブロック長の話

3. 班長の紹介

4. みんなで「かもつれっしや」

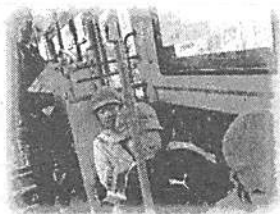
5. 縦割り班での活動

(自己紹介・「空き缶積み」・「ボーリング」・「ばくだんゲーム」)

6. 終わりの会 司会は西志津中

留意点 ・遊びのルール説明は班長が行う。

- ・白い画用紙7×18cmに下の名前をひらがなで書いた名札をつける。



バスにて移動



はじめの会：中学生の進行



空き缶積みの様子

7月4日「なかよしバザー」

① ねらい

- 各学校の活動について知り、親睦を深める。
- 縦割り班で活動を行い、活動の中で小中学生が交流を図り、11月の野外学習会の縦割り班活動につなげる。
- 教職員が児童生徒の実態把握を深める。

② 手立て

- ・小学生は中学校生活へのイメージをもちやすくするために、各学校の作品を持ち寄ること
とで紹介し合う。
(仮説1)

- ・買い物をしながらコミュニケーションを図れるようにするために、お客さんになって店を回る時は小学生と中学生や、高学年と低学年でペアを作る。 (仮説1)
- ・児童生徒の実態把握をするために、教職員も自分の学校のお店についたり、買い物の支援をしたりする。 (仮説2)

③ 活動の流れ

日時 令和元年7月4日(木) 9:00~10:30

場所 西志津小学校 音楽室(3階)

内容 自分達で作った商品を持ち寄り、交代でお客さんとお店屋さんになり、バザーを行う。その活動の中で、小中学生が交流する場を設ける。

・開店準備(役割分担・商品並べ他)

*お店は各校で担当し、自分達で作った商品を売る。

*商品は前半と後半で分けて、箱に並べてくる。

*値段は、事前に話し合い、個人の持参金の上限は300円とする。

*店の看板や装飾は、各校で行う。

・中学生がリーダーとなり、小学生の面倒を見る。

時程

9:00~9:10 集合・ブロック長の話(10分)

9:10~9:25 開店準備・ミーティング(10分)

*前専門店役と後半客役に分かれる。店役は各校で担当。客役は、中学生が小学生の面倒を見る。(前半A…1・3・4班 後半B…2・5・6班)

9:25~9:40 バザー①開始(Aが店、Bが客)(15分)

9:40~9:50 開店準備・ミーティング(10分)

9:50~10:05 バザー②開始(Aが客、Bが店)(15分)

10:05~10:15 片付け(10分)

10:15~10:25 ふり返り(ブロック長)(10分)

10:30 解散

*売り上げは各校に還元し、次の活動費や教材費に充てる。



はじめの会(全体会)



お店屋さんの様子



小学生と中学生のペア活動

(2) 井野ブロック編

6月18日 井野ブロック 小中顔合わせ交流会

① ねらい

- 交流がより円滑に行われるよう、小中学生が互いに親近感をもてるようにする。
- 小学生は、中学校の「作業学習」を体験し、キーホルダー制作を通じて共同学習の機会を増やす。
- 中学生は、リーダーとしてよりよい活動の参加の仕方を考え、自信をもって行動できるようになる。
- 活動の綿密な打ち合わせを通して、教職員同士が関わる機会を増やす。また、児童生徒の様子を共有する。

② 手立て

- ・班の友だちとの親睦をより深められるようにするために、活動時期を早め、継続的な関わりを計画する。 (仮説1)
- ・小学生が中学校のイメージを持ちやすくするために、中学校の授業で行われている「作業学習」を体験する。 (仮説1)
- ・中学生のリーダーシップを養うために、自信をもって教えることのできる陶芸を活動に取り入れる。 (仮説1)
- ・児童生徒によりよい支援をするために、年度当初から教職員が会う機会を増やし、情報交換をしやすくする。 (仮説2)

③ 活動の流れ

(ア) 事前の学習活動

- ・班の構成員の発表
- ・参加5校で分担した活動の準備 (※各校の役割は下枠【 】を参照)
- ・陶器のキーホルダーのつくり方の事前学習動画 (志津中作成) を各小学校で視聴。

(イ) 当日の活動 ※資料編参照

[開催日時] 令和元年6月18日 (水) / 9時半～11時

[活動場所] 小竹小学校地域学習室

[日 程]	09:30 ①はじまりの会【小竹小学校】
	09:40 ②アイスブレイキング「遠足へ行こうよ」【上志津小学校】
	09:50 ③班別自己紹介【志津小学校】
	10:10 ④キーホルダー制作【志津中学校】
	11:00 ⑤おわりの会【井野小学校】

(ウ) 事後の活動

- ・各小学校で陶器の乾燥、やすりがけを行う。
- ・中学校の窯で焼くため作品を渡す。受け渡し日を決めるためのやり取りも児童生徒で行う。
- ・中学校で素焼き・釉掛け・本焼きを行う。
- ・出来上がった作品を、中学生が小学校へ届ける。

*小学校から中学校へ作品を届ける際には、交流会の感想やお礼を書いた手紙を添えた。

*小学生が中学校へ作品を届けた際には、中学生が中学校の案内をした。

*完成品を小学校に届けた際には、中学生が学級だよりを紹介したり、夏まつりの頒布会のお知らせをしたりした。



班ごとに自己紹介



班でキーホルダーづくり



中学生に教わる小学生

6 結果と考察

(1) 仮説の検証

①各ブロックの様子

ア) 志津ブロック

仮説1においては、バザーの前の交流会やなかよしバザーを経験することで、縦割り班のメンバーの顔と名前を覚え、親しみを感じ野外学習会を楽しみにする児童生徒が増えている。中学生は、小学生をリードすることで中学生としての自覚が高まり、自信がついたことや野外学習会での班長としてのやる気も高まったなどの感想が聞かれ、野外学習会への期待が高まりつつある。今後の活動を通して、発達段階に応じた人間関係を養っていくことができるのではないかと考える。

仮説2においては、教職員の立場からも児童の顔や名前、様子を知ることができた。中学校入学時の対応に役立つのではないかとという声が聞かれた。またバザーでは、普段はなかなか知ることができない他校の活動内容がわかったので、とても参考になり情報交換の機会にもなった。毎年継続していきたいという声も聞かれ、今後の児童生徒への適切な支援を行うために役に立ちそうである。

イ) 井野ブロック

仮説1については、6月に交流会を設定したことで、年度の初めから児童生徒同士が関わることができた。特に5月に中学校から小学校へ送られたビデオレターでは生徒の声で児童へ直接呼びかけることができたため、今年の特別支援学級の年間行事に対する意欲や意識が高まる機会となったように感じる。さらに、夏休み前に中学校とやりとりをすることで6年生児童にとっては中学校を意識する良いきっかけとなった。

仮説2についても、3月から打ち合わせの機会を確保してきたことで、教員同士が直接話をする機会が格段に増えた。特に4・5月には入学した中1生徒の情報を共有できたことで、その時々に必要な相談を進めることができた。また、小学校同士も早い段階で行事を進めることで、ブロックとしての連携体制を築くことができた。実際に、今年度は野外学習会の下見のあとに、そのまま時間をとって話し合い、ある程度の計画をみんなで立てていこうという流れが自然と生まれていた。そのため、各学校の個のニーズに配慮した移手段、時間設定、活動設定を相談することができ、はじめから各校のどの児童にも配慮した計画を立てることができた。ブロック単位での連携体制を継続することで、今後も児童生徒への適切な支援につながっていくことができるだろう。

②児童の様子

取り組みについての児童の様子は以下の表の通りである。

ア) 志津ブロック Aさん

学年	5年（女兒）
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンが好きで、自分から取り組むことができる。 ・集団での行動は苦手であるが、小集団にしたり、個別的な対応をしたりすることで、活動に取り組むことができる。 ・興味のないことに対しては自分から取り組めないことがある。 ・やりたいことが思うようにできないと、感情的になることがある。
目標	<p><個別の指導計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲に目を向け、状況を判断しながら行動することができる。 <p><本取り組みでの目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら、自分の役割を果たすことができる。
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が意欲的に活動できるように、なかよしバザーで担当する活動を選んで決められるようにする。 ・小グループを編成し、友達との関わりが円滑に進むようにやりとりを仲立ちする。
取り組みの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは関心が薄かったが、本人に合った役割を与え、円滑に活動が進むメンバーでグループを構成したことで、とても意欲的に取り組むことができた。
その後の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の学校に、自分の欲しかった商品について、丁寧なお願いの手紙を書くことができた。相手校からも商品と共に心のこもった返事が届き、心の交流ができて嬉しそうだった。

イ) 井野ブロック Bさん

学年	6年（女兒）
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・快活で明るく、率先して学校生活に参加しようとする。人間関係に不安を抱きやすい面があり、自分の思いが通りにくい状況になると否定的な気持ちが強くなって、活動自体に参加できなくなることもある。しかし、気持ちの変化をくみ取ることで安心して活動に参加できるようになる。
目標	<p><個別の指導計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・嫌なことがあった時に、自分の思いを適切な言葉で身近な大人に相談することができる。 ・自信を高め、安心して中学校に進学できるようにする。 <p><本取り組みでの目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や中学校教員との関わりをもち、中学校生活への安心感を高める。
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて会う友達や先生との出会いには支援者が立会う。 ・同じ班に仲の良い下級生を加え、面倒見の良さを生かして活躍できるようにする。
取り組みの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイクのゲームでは、他校の友達と仲間を作ることに抵抗感があったようだが、グループを作ることができると安心し、笑顔が見られた。 ・キーホルダー作りが楽しかったと言っていた。
その後の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・キーホルダー作りが中学校の作業学習の一つだと伝えると、中学校での学習に関心をもったようだった。 ・中学生との交流は以前からあったため、入学への不安が大きく和らいだわけではないが、中学校の先生の様子がわかったことは嬉しかったようだ。小中合同野外学習会の班員に事前に会えたことも「安心した」と言っていた。また、「一緒に中学校へ入学する他の小学校の子にもっと会ってみたい」と言い、野外学習会を楽しみにする姿が見られた。

③教職員同士の様子

年度始めから交流を計画することで教職員同士が会う機会も増え、関係が深まるきっかけとなった。特に、今年度から新しく特別支援教育の担当になった教職員からは以下のような声があった。

- ・経験者の話を聞くことができたことで、とても勉強になったし安心した。
- ・他の小学校の先生方の児童との関わり方を見ることができて良かった。
- ・中学校の特別支援学級について何もわからなかったなので、交流会をもつことができ良かった。
- ・今後どのように小学校生活を進めていけば良いのか、考えるきっかけになった。

(2) 今後の展望

今回の発表は、今年度の新しく始めた活動の中間発表であるので、今後の展望について述べる。

① 小中合同野外学習会について

志津ブロックの野外学習会では、千葉市動物公園で、縦割り班で動物を見て回ったり、ふれあったりする活動を予定している。なかよし交流会となかよしバザーで関わった友だちと行動を共にするので、安心して活動できる児童生徒が多いのではないかと。中学生は、顔や名前、ある程度の性格などもわかる小学生が班に多ければ、班長として掌握がしやすいので、充実した時間をもつことができるだろう。

井野ブロックではカンドゥー（千葉市）で職業体験を行う計画である。当日に向け、中学生がリーダーとなり班活動の計画を立てる。中学生が、小学生の活動希望をアンケートの形で調査し、それをもとに計画を進めていく。班の固定化を行って3年目、また6月にも1回会っていることから、児童生徒によっては班の友だち個人へ宛てた手紙を書いたりすることも可能である。またアンケートや計画した内容をFAXで何度か行き来したり、楽しみにしていることをメッセージにして小中学校で送り合ったりすることもできる。児童生徒の関係が深まるよう働きかけを考えている。また、担任も下見の段階から合同で行い、計画もその場である程度立案した。大まかな配慮、児童・生徒についての情報交換も初めから各校の担任が交えて行うことで、計画段階から個のニーズに合わせた活動設定ができるようになった。当日までそれぞれがその時々々の情報を更新しながら、共通理解を進められるよう、打ち合わせの機会を充実させていきたい。

② 小中合同学習発表会について

小中合同野外学習会にて、より親しみをもった友だちの発表を見ることで、互いに励ましたり認め合ったりすることがしやすくなるだろう。可能であれば、交流会での経験を生かして、事前に各学校でビデオレターや班の友だち宛の手紙をつくり、それらのやりとりを通して各学校の発表をより楽しみにしたり応援したりする心を育てていきたい。

活動場所が確保できれば当日中学校の頒布会を開催することが毎年議題に上がっている。今年度は、志津ブロックで取り組んだ「なかよしバザー」が好評だったこともあり、気運が高まっている。実現した際には、志津ブロックと井野ブロック、さらに臼井ブロックとの交流を深める機会となり、小学生がより中学校の活動に関心をもつことができるだろう。

③ まとめ

どちらのブロックでも、ブロック単位で活動をすることによって交流する機会を増やすことができた。それによって、児童生徒同士の関係が築かれつつあり、互いに親しみをもつことができた。また、活動内容も中学校の活動を元に交流の内容を決めたことで、中学校での活動の一端を知ることができ、進学への不安の軽減につながった。

また教員の立場からもブロック単位の活動によって、打ち合わせ会などで直接話をしたり、FAXや電話等のやり取りをしたりする機会が増え、関わりが深まった。小学校同士の関係が深まったことで、教材や支援のアイデア等を情報共有することもできた。交流会でも各小学校の担任が自分の学校以外の児童のことも見ることができ、野外学習会での支援につながっていく。小中連携の活動についての話し合いだけでなく、学校の児童生徒や活動の様子についての情報交換や相談もしやすくなった。このことは、今後児童生徒へのよりよい支援につながっていくだろう。

資料編

志津ブロック「なかよし交流会」の感想

なかよしこういゆう会のかんそう

ほくががたかようまじあひ
で一番あつたこしはたてあひ
アヒアヒのゲームであひ
をみんなであひあげて
いくのがおもしろかったです

(志津)学校 名前()

なかよしこういゆう会のかんそう

はくたかゲーム(まはあひあひ)
はた(たり)しまし(も)次にあひあひ
あひあひあひあひあひあひ
西志津中のあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひ

(西志津中)学校 名前()

いたつて

なかよしこういゆう会のかんそう

あひあひあひあひあひあひ
甲斐台台めくのなかよしあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひ

(西志津中)学校 名前()

なかよしこういゆう会のかんそう

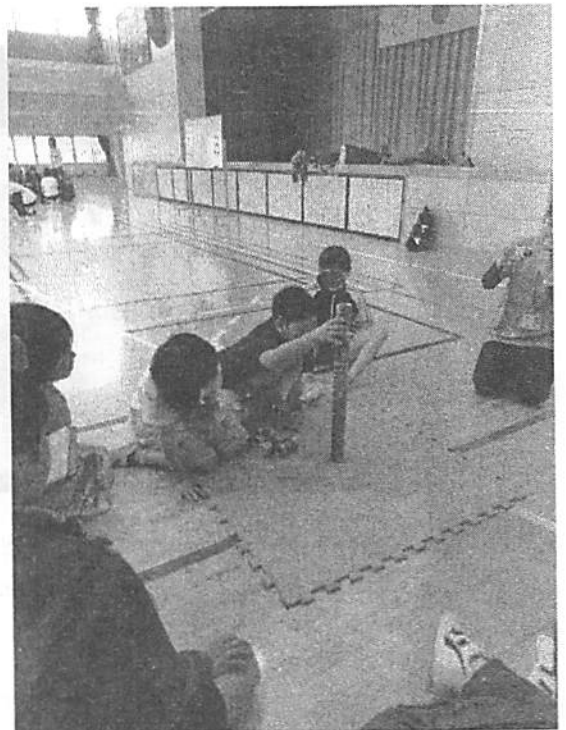
かまくれあひあひあひあひあひ
ホーリーあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひ

(いしづか)学校 名前()

かもつれっしや



空き缶積み→



志津ブロック「なかよしバザー」の作品



下志津小学校 プラ板のキーホルダー 30円



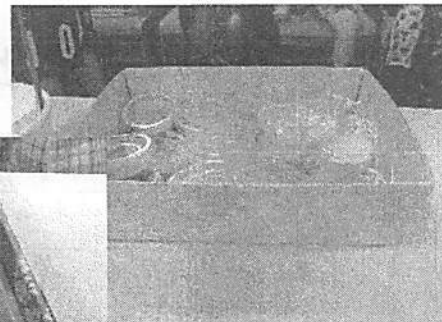
西志津小学校 スマイルスーモ 50円



南志津小学校
紙コップロケット
50円



自分人形 50円

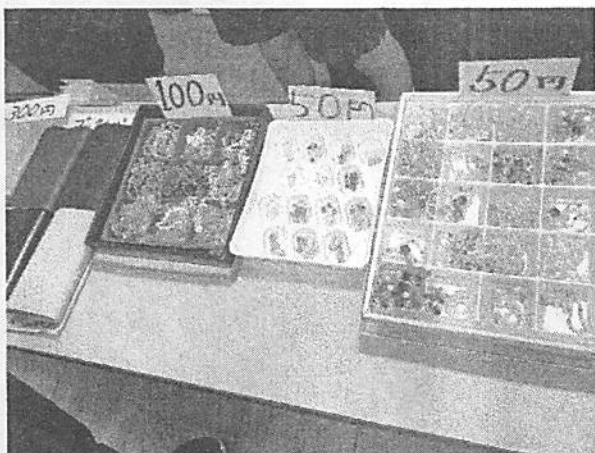


香り付きスライム 50円



紙のお花 10円

ペットボトルキャップの小物入れ・ブローチ 100円



西志津中学校 ビーズの指輪 50円 ビーズのブレスレット 50円・100円

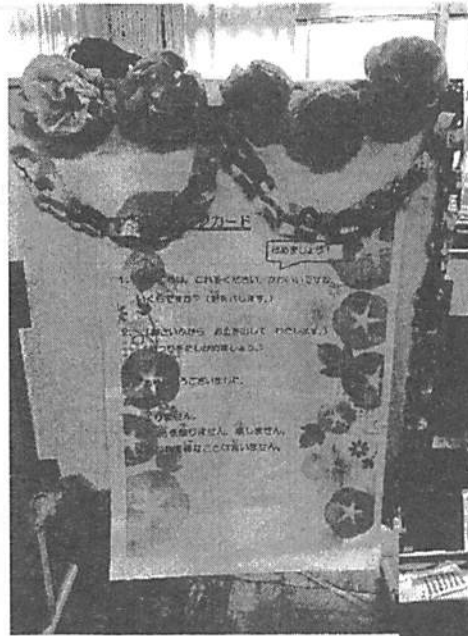


UV レジンのキーホルダー 50円 革製のブックカバー 300円

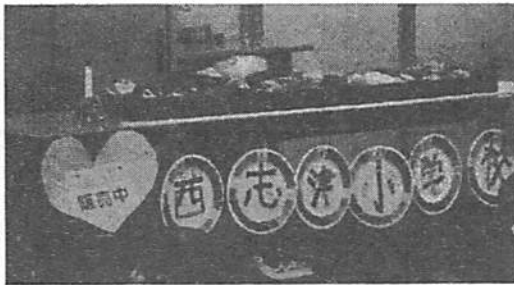
お店の看板



下志津小学校



品物を買う時の言葉と約束を掲示



西志津小学校

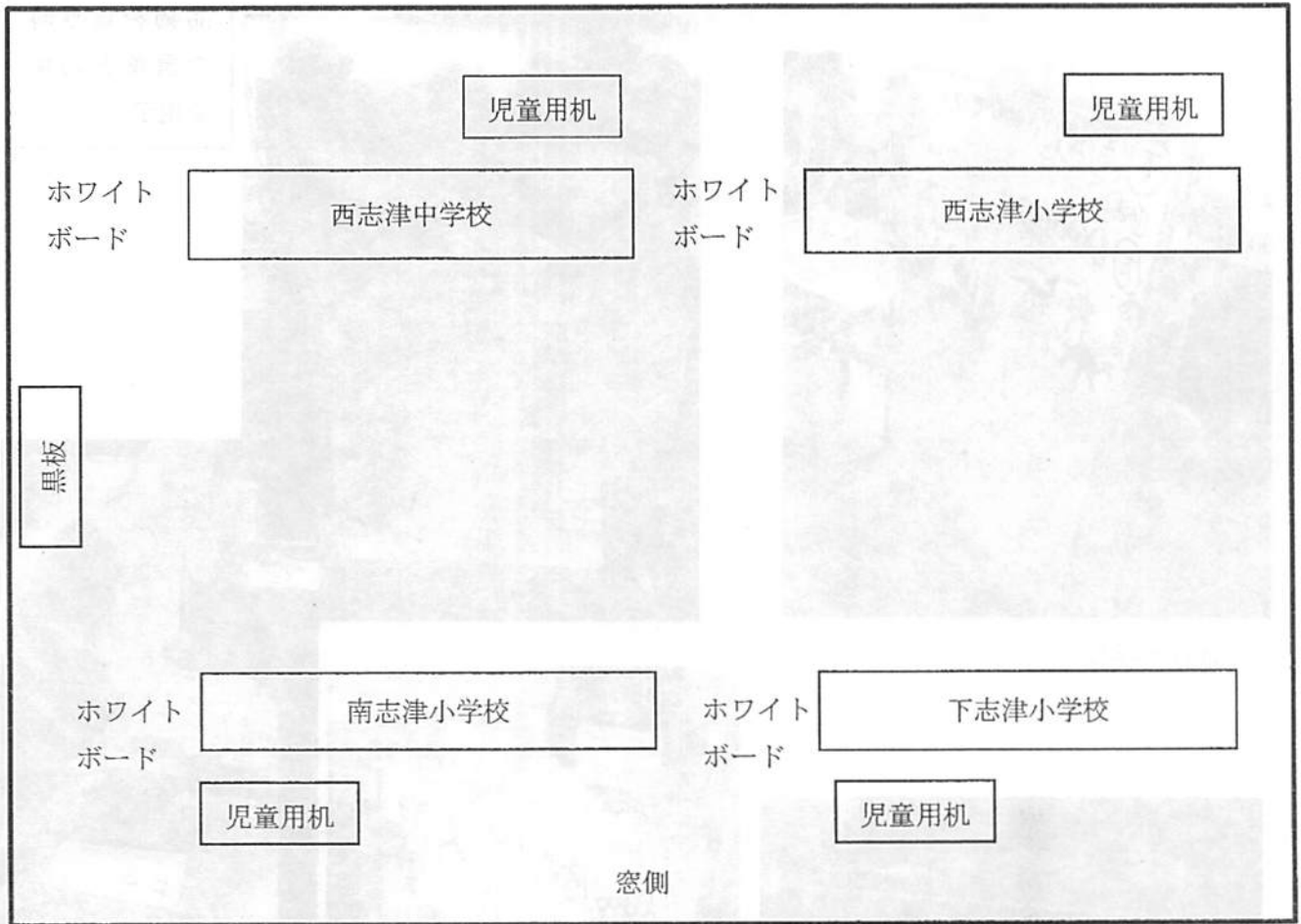


西志津中学校



南志津小学校

なかよしバザー 場の設定
場所：西志津小学校 3階音楽室



なかよしバザーのふりかえりをしよう

南志津小)学校
名前()

① バザーでなにを かいましたか。

スライム、アレスレット、くまぬいぐるみ

- ② ほかのがっこうのともだちと なかよく かいものことができましたか。
- ③ おみやげさんのときは じぶんのやくわりを しっかりとできましたか。
- ④ おしゃくさんのときは お金を正しくはらって かうことができましたか。
- ⑤ なかよしバザーの しなものづくりを がんばりましたか。
- ⑥ なかよしバザーをして おもったことを かきましよう。

ほかの学校の 商品が売れてうれ
しかったです
おみやげの人と、相手の商品を
商品が売れることができてうれ
またなかよしバザーを
りたかったです。

なかよしバザーのふりかえりをしよう

(西志津中)学校
名前()

① バザーでなにを かいましたか。

花びん、アレスレット、スライム、
ズボン、
買った。

- ② ほかのがっこうのともだちと なかよく かいものことができましたか。
- ③ おみやげさんのときは じぶんのやくわりを しっかりとできましたか。
- ④ おしゃくさんのときは お金を正しくはらって かうことができましたか。
- ⑤ なかよしバザーの しなものづくりを がんばりましたか。
- ⑥ なかよしバザーをして おもったことを かきましよう。

花びん、アレスレット、スライム、
ズボン、
買った。
おみやげの人と、相手の商品を
商品が売れることができてうれ
またなかよしバザーを
りたかったです。

佐倉市志津ブロック
特別支援学級設置校校長 様

西志津小学校校長 川尻 高志
志津地区ブロック長 須藤 恭子

平成31年4月4日

志津ブロック特別支援学級設置校校長 様

志津地区ブロック長 須藤 恭子

志津ブロック小中連携プロジェクト

「みんなであそぼう会」の開催について

志津ブロックでは、小中連携を推進するために、年3回の縦割りでの活動を計画しました。第1回は4月の「みんなであそぼう会」、第2回は7月の「なかよしバザー（仮称）」、第3回は11月の「野外学習会」です。

第1回の「みんなであそぼう会」につきまして、下記のとおり開催いたしますので、各校職員及び児童の出席につきまして、ご配慮くださいますようお願いいたします。

記

1 日時 平成31年4月23日（火） 午前10時30分～11時20分

2 場所 佐倉市立西志津小学校 体育館
〒285-0845
佐倉市西志津7丁目2番1号
043-489-5835

3 内容 (1) 小中連携プロジェクト7月の「なかよしバザー（仮称）」に向けての年間総割り登の確立と顔合わせを行い、交流を図る。

(2) 「なかよしバザー（仮称）」と11月の「野外学習会」に向けて、今後の活動の見直しをもつ。

*不明な点につきましては、佐倉市立西志津小学校043(489)5835 須藤までご連絡ください。

なかよしバザーの開催について

このことについて、下記のとおり開催いたしますので、貴校関係職員（特別支援学級担任・通級指導教諭或担当者・特別支援教育支援員）及び児童・生徒の参加につきまして、ご配慮くださいますようお願いいたします。

記

1 日時 令和元年7月4日（木）（雨天実施）
午前9時から午前10時30分まで

2 会場 西志津小学校 多目的室（プレハブ校舎1階）

3 目的 ①自分たちが作った作品を持ち寄り、お居屋さんとお客さんに変代となり、バザーを行う。
②グループで活動を行い、活動の中で、小中学生が交流を図り、11月の野外学習会のグループ活動につなげる。
③教員が児童生徒の実態を把握し、理解を深める。

4 日程および活動内容

9:00～	9:10	集合・先生の話
9:10～	9:20	開店準備・ミーティング
9:25～	9:40	バザー①
9:40～	9:50	開店準備・ミーティング
9:50～	10:05	バザー②
10:05～	10:15	片付け
10:15～	10:25	振り返り
10:30		解散

5 参加校 南志津小学校・上志津中学校・西志津中学校・西志津小学校

担当 西志津小学校 須藤 恭子
電話 043-489-5835

共通引継ぎ用紙 サポートシート

記入年月日 平成 年 月 日

学校名・記入者氏名 _____

志津小学校長確認 _____ 印

印旛特別支援学校中学校長確認 _____ 印

児童氏名 (_____)

項目	児童の実態、支援の方法・手立て等
学習面 読む、書く、計算するを 中心に授業での様子 など	
生活面 身辺処理、生活リズム 清掃や係活動への取組	
健康面 服薬の有無、健康管理上 配慮が必要なこと	
身体・運動面 集団遊び、ルールのある 遊び、手先の器用さ 走る・跳ぶ など	
情緒面 対人関係、集団参加 感情のコントロール	
家庭との連携 主に面倒を見ている人 主なやりとりの方法	
他機関との連携 医療機関、療育機関等	
その他 上記以外の引継ぎ事項	

保護者記入欄 進学後の学校生活に関する家庭の意向、要望、期待など

この記入事項を、お子様のより良い学校生活のために関係者に情報提供することに同意します。

保護者氏名 _____

井野ブロック「顔合わせ交流会」細案

令和元年5月8日

志津中学校

井野ブロック顔合わせ会（6月18日）キーホルダーづくり実施計画

1 時間 小竹小学校体育館 9時半～11時00分（制作 10時00分～1時間）

2 活動の方向性の確認

・全体の目的

◎ キーホルダーの共同製作を通じて小中学生が連帯感を持って活動できる。

・本時の目標

小学生：キーホルダーづくりの工程を理解する。

中学生：小学生へキーホルダーづくりの技術をわかりやすく教えられる。

3 展開

10:00	会場準備	班隊形に集合 ※各班、中学校生徒2～3名・職員1名配置	中学生・職員は長机（各班3台）をコの字型に配置。
10:05	導入	活動目標の提示 通年：学習発表会の記念品をみんなで作ろう 本時：キーホルダーの作り方を覚えよう 自分のための作品を作ろう	中学校の作業学習・製品完成までの工程は、事前に各校で動画視聴。
10:15	製作	<p>①練り 粘土（100g／組）を牛乳パックの上で捏ねる。 固い場合、適宜水入れから水を足す。</p> <p>②伸ばし 画板の上に5mmのたたらを2本敷き、延し棒で延す。2人組で交代に行う。</p> <p>③型抜き 抜き型で1人2枚抜く。</p> <p>④穴あけ ストローでストラップを通す穴をあける。</p> <p>⑤細工 楊枝で模様や印を書き込む。工程⑤が完了した製品は学校ごとに容器へ収納する。</p> <p>早く終了した児童のみ工程⑥へ</p> <p>⑥乾燥後の製品の削り（見本品使用） 紙やすりや楊枝で角や穴を滑らかにする。</p>	<p>各組で進行。 中学生・職員は作業台に道具を配置し、粘土板、牛乳パックを養生テープで長机に固定。</p> <p>用意するもの 〈志津中〉下線の道具 〈小竹小〉長机、画板10枚、清掃用具 〈個人〉10紙パック、雑巾 〈各校〉雑巾（予備）、新聞3日分、持ち帰り用容器、画板2枚、抜き型※（4×5cm以内※） ※丸みのある一辺3cm程度の型がよい。</p> <p>製品は各小学校で乾燥させた後、工程⑥を行い、中学校へ届ける。</p>
10:45	後片付け	手を洗う。 机と床を掃く。道具・机を濡れ雑巾で拭く。	箒、ちり取り、バケツ
11:00	終了		


井野ブロック「顔合わせ交流会」事後の活動

毎年8月に開催される中学校頒布会のちらし

今年度初めてブロックの小学校へちらし配布を行った。

一部の小学校へは交流会の作品の配達に合わせて中学生が訪問し、教室で宣伝する機会を作った。

小学校のみなさんへ
志津中学校とまわき学校販売会の
ご案内



志津まつりの1日目に
販売会を行います。

場所 志津駅前ロータリー
(ゆうたよ ATMとなり)

とき 8月24日 17:00 ~ 19:00

※ 今年は2日目の販売は行いません

みなさんにあえるのを楽しみにしています！
ぜひお来てください！

志津中学校で頒布している製品

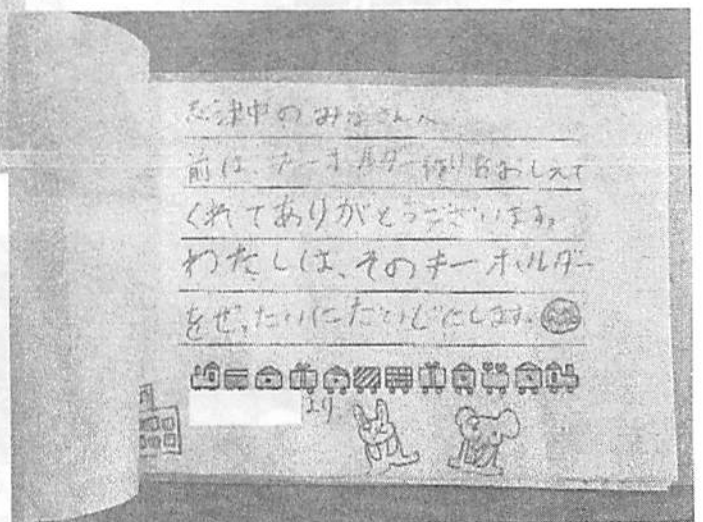
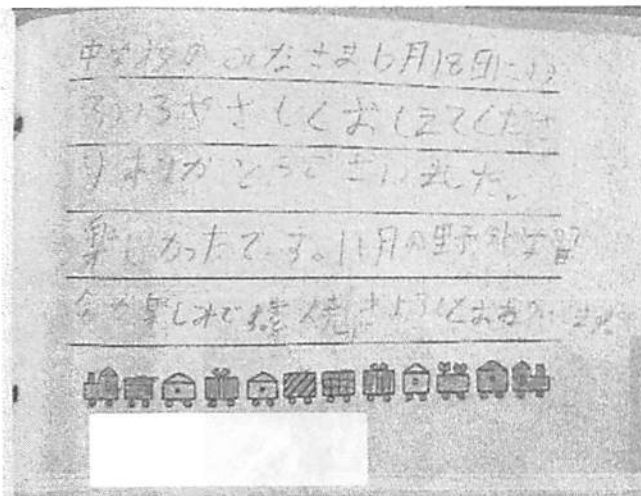
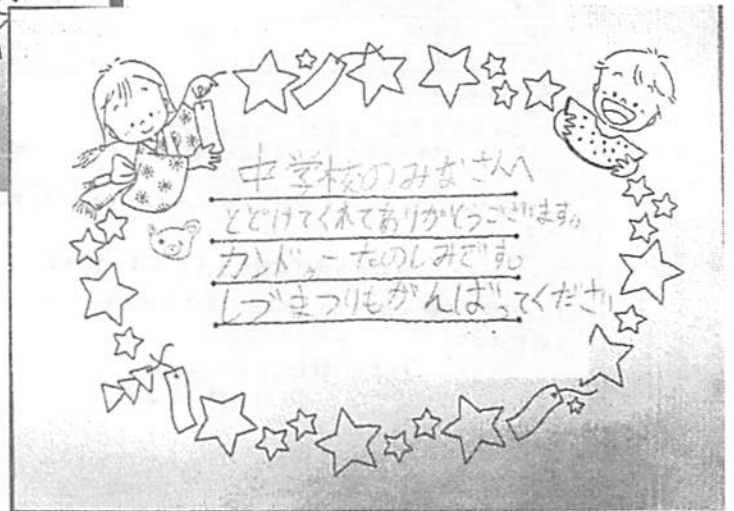
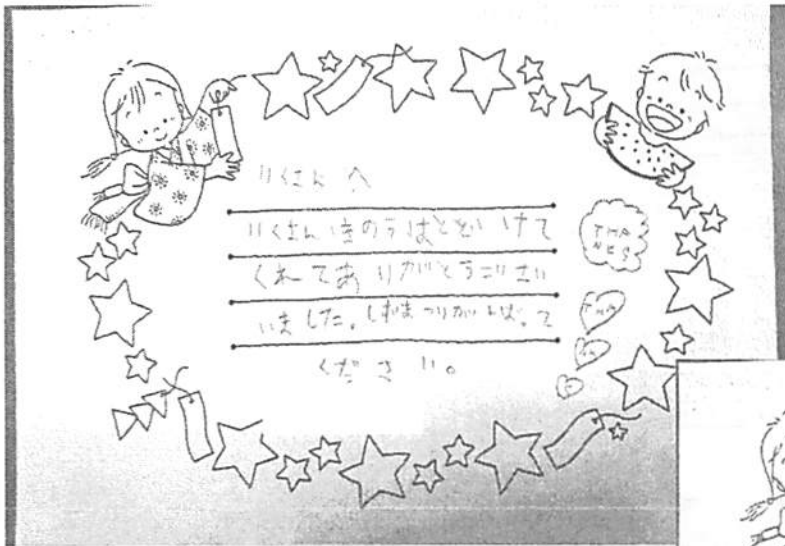
週6時間程度「作業学習」で陶芸を実施。

志津中で実施する小6体験では、児童が作業学習の体験を希望することが多い。

近年は、小中合同学習発表会の参加賞製作も行っている。



小学生から中学生への手紙



キーホルダーの受け渡し

藤井 四ノ宮 中 日 中 学 校

① 中学生からのFAX

ファクシミリ送付票	
送付年月日	2019 年 7 月 2 日
宛 先	佐倉市立井野小学校 特別支援学級担任様
	佐倉市立上志津小学校 特別支援学級担任様
	佐倉市立芝津小学校 特別支援学級担任様
	佐倉市立小竹小学校 特別支援学級担任様
件 名	粘土職工の送付について
取扱い (○をつける)	後日送付 (有 / <input checked="" type="radio"/>)
枚 数	送付原を合わせて 2 枚
送 付 先	佐倉市立志津中学校
送 付 者	生徒代表 責任教師 知念 長峰
電話番号	電話 043-487-6611 FAX 043-462-4602
<連絡事項>	
各小学校の児童のみならず、お元気ですか。 6月18日の顔合わせ会ではたいへんお世話になり、ありがとうございました。 小学生のみならず、いっしょにけんがい作ってくれてとてもうれしかったです。 さて、みなさんの作品を志津中学校で展示し、本焼きをします そして志津中学校へ持って来てくれる日と方法を教えてください (別紙にて) 7月5日(金)までに教えていただけようように ぶろしくお願いします。	

② 受け渡し当日の様子

